

るとすれば、せいぜい15分程度である。下位の生徒にとっては、もう少し時間が欲しいという声も聞かれた。そのためにも②で述べたようなことが必要になってくるであろう。

- コース別学習課題の解答の示し方、発表のさせ方に難点が見られた。効果的なものにするた

めにも、OHPやカードの活用がより必要になるう。

以上、今回の研究は、いくつかの課題を残しながらも、数多くの成果をあげることができた。これらの手だてが少しでも役に立てばと願うものである。

参 考 文 献 (数学科編)

- 1 中学校指導書 数学編 文部省 (大日本図書)
- 2 授業改革事典 東 洋・中島章夫・梶田毅一 (第一法規)
- 3 S-P表の作成と解釈 佐藤隆博 (明治図書)
- 4 個に応ずる算数指導 古藤 伶・能田伸彦 (明治図書)
- 5 個人差に応ずる教育 東京学芸大学教育研究所 一第二年報一 (学芸図書株式会社)
- 6 ひとりひとりを生かすための算数教育情報 日本学習能力開発研究会 (学習研究社)
- 7 到達度評価の研究 一その方法と技術一 橋本重治 (図書文化)
- 8 授業における診断的評価に関する研究
一イメージ・テストによる授業システムの評価一 (神戸市立教育研究所 研究報告第180号)
- 9 教師のための「統計入門」一電卓の使い方から検定まで一 (福島県教育センター)
- 10 授業研究と評価 「2-1-2方式の授業研究」 (福島県教育センター 紀要第39号)
- 11 学習指導の個別化 「個を認める研究」 (福島県教育センター 紀要第41号)
- 12 学習指導の個別化 「個を生かす研究」 (福島県教育センター 紀要第47号)
- 13 「数学Ⅰ」・「英語Ⅰ」における目標分析と形成的評価問題に関する研究
一習熟度別学習を進めるために一 (福島県教育センター 紀要第48号)